



The Record

vol.63I

June
2012

平成 23 年度事業報告
2011 年世界の音楽産業



Contents

Monthly News Digest	1
特集	
平成 23 年度事業報告	3
2011 年世界の音楽産業	7
私の一枚	11
Data File	12
Monthly Production Report	13
GOLD DISC	14

5/2

IFPI (国際レコード産業連盟) 中央理事会開催

5月2日、ロンドンのEMI Music 本社会議室においてIFPI (国際レコード産業連盟) 中央理事会が開催された。

中央理事会は、フランシス・ムーア IFPI会長が議長を務め、4大メジャーレーベルの代表、インディーズ代表 (ヨーロッパ、北米、南米、アジアの4地域の代表)、主要地域のIFPI支部の代表らによって構成される会議であり、今回は事務局を含め25名が出席した。当協会からは畑理事が北川会長の代理で出席した。

会議において時間をかけて議論されたのは、インターネット上の違法音楽利用の実態変化と今後の対策強化についてであった。違法利用実態については、P2P ファイル共有ソフト「LimeWire」の米連邦地裁判決によるサービス停止 (2010年10月)、ストレージサービス「Megaupload」の米司法省による刑事摘発 (2012年1月)、フランス等におけるいわゆる「3ストライク制」の実施 (2010年9月フランスで開始) などの効果により、世界レベルでは利用者数が減少傾向にあるものの、相変わらず甚大な権利侵害の実態が続いていることが報告された。IFPIのまとめによると、ロンドン本部および世界45カ国のIFPI支部が2011年に実施したプロバイダ等に対する削除要請件数の合計は、1,000万件をはるかに超える結果となった。今後も、IFPIは各国支部との連携により、更なる違法対策の強化に取り組むことが確認された。また、違法音楽配信の撲滅に向けた法制度の整備に関して、政府およびプロバイダとの協力による3ストライク制の導入を各国で求めていく方針も確認された。

当協会からは、日本における活動状況の報告として、現在政府等で検討されている「違法な音楽・映像ファイルをダウンロードする者に対する罰則の導入」について、また、当協会会員社らを原告とするTUBEFIRE訴訟の経過、私的録画補償金管理協会 (SARVH) と株式会社東芝との間の訴訟の経過などを説明した。

その他、全世界のレコード市場の状況やレコード使用料徴収額の推移と今後の課題などのテーマについて報告と議論が行われた。

今回の中央理事会は本年11月にニューヨークで開催される予定である。

5/8

音楽ファイル違法アップローダーの氏名等の開示を命じた判決下る

5月8日、東京地方裁判所は、インターネットサービスプロバイダであるソネットエンタテインメント株式会社 (以下、被告プロバイダ) に対し、ファイル共有ソフトを利用してインターネット上で音楽ファイルを違法にアップロード (公開) していたアップローダーの氏名等を、当協会会員レコード会社 (日本コロムビア株式会社、株式会社ポニーキャニオンの2社。以下、原告レコード会社) に開示するよう命じる判決を下した。

原告レコード会社は被告プロバイダに対し、「プロバイダ責任制限法」第4条第1項に基づき、原告レコード会社が権利を有する市販音楽CDの音源をファイル共有ソフトを利用して許諾なくアップロードしていたアップローダーの行為が、各社の著作権隣接権 (送信可能化権) を侵害しているとし、当該アップローダーの氏名、住所等の情報 (発信者情報)



開示を2010年10月25日に求めている。しかしながら、被告プロバイダが発信者情報を開示することは致しかねると回答したため、2011年7月7日に同裁判所に本訴訟を提起していたものである。なお、原告レコード会社は今後、開示を受けたアップローダーに対して損害賠償請求等の交渉を行う予定である。

5/25

第452回理事会・定時総会・ 第453回理事会開催 役員改選、北川会長再任

5月25日、当協会は、東京都千代田区の東京會館において、第452回理事会、定時総会、および第453回理事会を開催し、平成23年度事業報告書、決算報告書および役員人事等が承認された。役員任期は、いずれも2012年5月25日より2年間。会長には、引き続き、北川直樹(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレート・エグゼクティブCEOが再任された。

事業報告書の詳細は、本誌3～6ページ「平成23年度事業報告」に掲載。

◆◆当協会役員人事◆◆

■再任(5月25日付)

【会長】

北川直樹

株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレート・エグゼクティブCEO

【副会長】

齊藤 正明

ビクターエンタテインメント株式会社代表取締役社長

市井 三衛

株式会社EMIミュージック・ジャパン代表取締役社長兼CEO

小池 一彦

ユニバーサル ミュージック合同会社CEO兼社長

【専務理事】

田口 幸太郎

一般社団法人日本レコード協会

【常務理事・事務局長】

高杉 健二

一般社団法人日本レコード協会

【理事】

原 康晴

日本コロムビア株式会社代表取締役社長兼COO

重村 博文

キングレコード株式会社 代表取締役社長

石橋 誠一

株式会社ティックエンタテインメント代表取締役社長

佐藤 智則

日本クラウン株式会社 代表取締役社長

篠木 雅博

株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ代表取締役社長

桐畑 敏春

株式会社ポニーキャニオン 代表取締役社長

石坂 敬一

株式会社ワーナーミュージック・ジャパン代表取締役会長兼CEO

平井 文宏

株式会社パップ 代表取締役社長

高木 ジム

ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメントジャパン合同会社 最高経営責任者兼社長

林 真司

エイベックス・マーケティング株式会社代表取締役社長

後藤 豊

株式会社フォーライフミュージックエンタテインメント代表取締役社長

畑 陽一郎

一般社団法人日本レコード協会

【監事】

五十嵐 弘之

株式会社ドリーミュージック 代表取締役社長

吉田 耕一

株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ代表取締役社長

石田 英遠

弁護士

【顧問】

依田 巽

株式会社ドリーミュージック 代表取締役会長

佐藤 修

株式会社ポニーキャニオン 取締役相談役

稲垣 博司

エイベックス・エンタテインメント株式会社顧問

RIAJ2012年5月度理事会・総会議案

第452回理事会(平成24年5月度)議案 [5月25日開催]

■ 審議事項

1. 平成23年度事業報告書(案)の件
2. 平成23年度決算報告書(案)の件
3. 店頭試聴機支援費用を予備費から支出する件以上3件、いずれも承認された。

■ 名義使用申請報告

1. 2012「関西歌謡大賞」協賛名義使用並びに援助金依頼の件
2. 「TIFFCOM2012」開催に伴う後援名義使用依頼の件

■ 報告事項

1. 法制委員会関係報告
 - (1) 違法DLに関する法制化の動き
 - (2) 中国著作権法改正に関するパブリックコメントの提出
2. マーケティング委員会関係報告
 - (1) 「大人の音楽キャンペーン」第8弾実施概要
3. 広報委員会関係報告
 - (1) CD音源の試聴体験イベント実施案
4. その他報告
 - (1) IFPI中央理事会(5/2)概要報告
 - (2) TPP関係(経産省依頼アンケート等)の対応

定時総会議案[5月25日開催]

■ 審議事項

1. 平成23年度事業報告書(案)の件
 2. 平成23年度決算報告書(案)の件
 3. 役員選任の件
 4. 常勤役員報酬総額承認の件
- 以上4件、いずれも承認された。

第453回理事会(平成24年5月度)議案 [5月25日開催]

■ 審議事項

1. 会長選任の件
 2. 副会長選任の件
 3. 常勤役員および事務局長選任の件
 4. 顧問委嘱の件
 5. 委員会体制の件
- 以上5件、いずれも承認された。

◆◆会員社のお知らせ◆◆

■ 代表者変更(4月1日付)

社名: バンダイビジュアル株式会社
代表: 代表取締役社長 川城和実
(前代表取締役社長 大下聡)

平成23年度事業報告

平成23年は長引く不況に加え、東日本大震災という未曾有の災害に見舞われた年であり、レコード等の生産・販売実績は、一昨年に続き前年を下回る結果となった。また、レコード産業成長の最大の阻害要因であるインターネット上の違法音楽配信や動画共有サイトからの不正ダウンロードの蔓延等の影響を受け、有料音楽配信実績が前年割れするなど、レコード製作者を取り巻く環境はますます厳しい状況となっている。

平成23年度、当協会は、攻めと守りの両面により一層実効性のある対策を講じることを打ち出し、8項目の重点施策（①「違法音楽配信の撲滅」、②「需要拡大施策の展開」、③「レコード製作者の権利収入の拡大と適正な分配」、④「レコード製作者の権利の確保、強化」、⑤「シェアードサービスの拡大」、⑥「著作権教育・啓発活動の充実」、⑦「シンクタンク機能の充実」及び⑧「音楽文化の維持、発展のための施策」）を中心に以下の事業を推進した。

事業活動

[1] レコードの普及に関すること

1. 音楽CD再販制度の維持

- (1) 会員各社の再販弾力運用の取組みを報告書にとりまとめ、3月に公正取引委員会へ提出するとともに、当協会ホームページで公表した。
- (2) ユーザーサービスの一環として実施しているインターネット廃盤セールを、1月13日から1月27日の間実施した。

2. レコードの需要拡大施策の展開

(1) 「CDショップ大賞」の充実・強化

2月27日に渋谷BOXXで開催した第4回授賞式および店頭展開・広報展開の支援を行った。授賞式はインターネット上で生中継したほか、主要なテレビ・ラジオ番組やウェブニュースでも取り上げられ、顕彰の認知拡大と店頭における受賞作品の売上増に一定の効果があつた。

(2) 大人の音楽キャンペーンの実施

会員16社が参加する合同キャンペーンを年2回（5月11日～7月11日および11月30日～1月31日）実施した。各回とも対象商品（計140タイトル）のパンフレットを作成し配布するとともに、コンピレーションCD 2タイトルを中心とした店頭キャンペーンや、ラジオ特番放送・トークイベント開催などを行った結果、対象商品の出荷実績は好調に推移した。

(3) 高音質/高品質CDの普及促進

音楽物Blu-ray Discの認知拡大を目的として「音楽物Blu-ray Discキャンペーン」を年末商戦に合わせて実施した。259タイトルを掲載した「BD Music カタログ」10万部を販売店へ配布したほか、「ブルーレイディスク完全ガイド」（DEGジャパン製作/50万部発行）への広告出稿を行った。また、日本オーディオ協会主催「オーディオ&ホームシアター展TOKYO2011」へ出展し、各種高音質CDの魅力をユーザーへアピールした。

(4) ミュージック・ジャケット大賞の創設

CDジャケットの魅力を訴求しパッケージ商品の購買拡大に繋げるべく、「ミュージック・ジャケット大賞」

を創設し、11月22日に大賞1作品、準大賞2作品および特別賞を発表した。TV、新聞、ウェブニュース等で取り上げられ、あわせて大手CDショップでの店頭展開を行った。

3. 「日本ゴールドディスク大賞」の実施

第26回となる今回の授賞式は、1月27日にニコファーレにて受賞アーティストによるライブパフォーマンスを交えて開催した。授賞式の模様は多くの媒体で取り上げられ、3月2日・11日にBSスカパーで無料放送された。また、4月以降もMTVにて4回放送されるとともに、アジア各国でも放送される予定である。なお、今回は各賞の見直しを行い、各カテゴリーに「アジア」枠を新設した。

4. 「着うたフル®」ウィークリーチャートの活用

毎週のチャート公表と、平成23年の上半期及び年間チャートを公表した。同チャートのランキングは、地上波民放テレビや衛星テレビの番組、携帯電話向けサイトなどで紹介されている。

5. 日本音楽の海外展開の促進

音楽産業・文化振興財団（PROMIC）主催の「東京国際ミュージックマーケット」（TIMM）に参画した（14カ国・地域から80名のバイヤーが来日）。3月末時点の成約件数は、CDパッケージ38件、配信213,443件、ライブ48件、TV放映2件の実績となり、特に配信の成約件数が前年の10,743件から飛躍的に増加した。

6. 大学寄附講座の開設

本年度から横浜国立大学（経済学部対象）にて寄附講座「コンテンツビジネスと法」を開講した。秋学期の10月11日から2月7日まで全15コマの講義を実施し、履修生は140名となった。

7. RIAJセミナーの開催

会員社を対象に7回開催した。

8. その他

“Music J-CIS” (Music Japan-Copyright Information Service) の構成団体として活動を行った。音楽権利情報データベースを充実させるため、平成23年度発売新譜等の楽曲情報取り込みを実施した。その結果、平成23年度末時点での収録楽曲総件数は約404万件まで拡大した(前期末約387万件)。

[2] レコードに関する調査研究および資料の蒐集に関すること

1. 市場調査、産業統計の充実

音楽パッケージソフトの月別生産実績、並びに四半期毎の音楽配信売上実績を集計し公開した。

2. 音楽に関する消費者実態調査の実施

ユーザーの音楽利用実態の推移やスマートフォンの利用が音楽購入に与える影響・効果等を把握するため、「2011年度音楽メディアユーザー実態調査」を実施し、会員社向け報告会を開催するとともに当協会ホームページ上で公開した。

[3] 録音による芸術文化の保存に関すること

1. 歴史的音盤アーカイブ事業の推進

歴史的音盤アーカイブ推進協議会 (HiRAC) を中心にSP盤等の音源デジタル化作業を進めた。平成23年度は12,655音源を国立国会図書館に納入し、その結果、平成21年度から24年度までの4年間で納入予定の約51,000音源のうち、約38,700音源の納入が完了した。国立国会図書館に納入した音源は、平成23年5月から同館館内にて、また、平成24年1月から同館の許可を得た公共図書館においても聴取可能となっている。

2. 「文化庁芸術祭」への協力

「第66回文化庁芸術祭」のレコード部門申請窓口として36作品を参加申請し、参加が承認された36作品の中から芸術祭大賞1作品、優秀賞3作品が選出された。

3. 「日本プロ音楽録音賞」の共催

優秀な音楽録音作品を選定し、その録音エンジニアを顕彰する「第18回日本プロ音楽録音賞」を、当協会が日本音楽スタジオ協会、日本ミキサー協会、日本オーディオ協会、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nestと共催し、12月6日に授賞式を開催した。

[4] 著作権・著作隣接権等に関すること

1. 違法音楽配信を撲滅するための対策の強化

- (1) 動画共有サイト、ストレージサービス、携帯電話向けサイトなどに対する年間の削除要請件数は約27万件に増加した(前年度24万件)。また、中国の動画共有サイト

について、下期から削除要請の取組みを強化した。

- (2) 携帯電話向けフィルタリングや削除要請等の実効性向上のため、携帯電話向けサイトに対する違法音楽ファイルの探索強化等の技術的方策について、携帯電話事業者および他の音楽権利者団体と協力して検討を実施した。次年度も継続して推進する。
- (3) 音楽ファイルの違法アップローダーや海賊版の頒布者に対する17件の刑事事件を取扱った(昨年実績7件)。
- (4) 会員レコード会社等31社が原告となり、平成23年8月、YouTubeからの動画ダウンロード支援サイト「TUBEFIRE」を運営するミュージックゲート社を東京地裁に提訴した。当協会は、提訴およびその後の訴訟対応に関する会員社の実務を支援した。
- (5) 「ファイル共有ソフトを悪用した著作権侵害対策協議会」(CCIF) が実施するプロバイダを通じた違法ユーザーへの警告スキームの取組みを継続し、2,159件の啓発メールを送付した。
- (6) ファイル共有ソフトを悪用した違法ユーザーについて、会員社8社が原告となった発信者情報開示請求訴訟でプロバイダに9名分の情報開示を認める判決が下され、開示された情報を基に当該違法ユーザーに対し損害賠償請求等の交渉を開始した。
- (7) スマートフォンによる違法な音楽配信について、違法な音源や画源をリンクにより提供するアプリケーションの開発者・提供者への対応を開始した。

2. 違法音楽配信を撲滅するための法整備の推進

- (1) プロバイダ責任制限法の見直しについて、総務省の検証WGにおける検討の結果、現時点での法改正は不要という結論に至った。このため、プロバイダと権利者団体で運営する民間の協議会において「発信者情報開示請求関係ガイドライン」の改定に取り組み、権利者とプロバイダ双方が協力して開示・非開示の手続きを迅速かつ円滑に行うことを運用指針に盛り込むに至った。
- (2) 「違法な音楽ファイルをダウンロードする者に対する罰則の導入」について法制化を目指し、他の権利者団体の協力のもと様々な関係者への働きかけを行った。

3. 「違法配信からのダウンロード違法化」等の広報活動の実施

違法音楽配信問題や改正著作権法30条の更なる周知、エールマークの認知拡大等を図るべく、協会内にプロジェクトを立ち上げキャンペーン施策を検討した。

4. 著作権教育活動の実施

- (1) 若年層への著作権教育の機会増大のため、中高生の体験学習の一環として会員社に依頼がある職場訪問を積極的に招致すべく、旅行代理店・教育関係者にアプローチした。また、文部科学省のWebサイト「総合的な学習の時間・応援団」にも当協会の受け入れ情報が掲載

された。しかし、平成23年度の年間受け入れ実績は、震災による修学旅行の中止・延期等の影響で3,831名(前年度訪問生徒数6,427名)に留まった。

- (2) NPO法人企業教育研究会 (ACE) と連携し、教員・教育学部在学学生を対象に「社会とつながる音楽・教育研究会」と題した勉強会を2回実施した。
- (3) NTTドコモと連携し、同社が児童・生徒、保護者、教員を対象に実施する「ケータイ安全教室」(平成23年度は年間71万人が参加)において、当協会の啓発リーフレットを補助教材に用いた著作権教育が組み込まれた。

5. 「私的録音録画補償金制度」の見直しを求める活動

- (1) 他の権利者団体と協力し、関係省庁等のヒヤリング等の場において、権利者への対価還元施策の必要性について働き掛けを行った。
- (2) 私的録音録画補償金管理協会 (SARVH) 一東芝間の訴訟について、平成23年12月22日、SARVH敗訴の控訴審判決が下された。最高裁への上告について、当協会はSARVHの構成団体として必要な支援を行った。

6. レコードの業務上の利用から適正な対価が還元される制度創設に向けた活動

実演家団体と合同で制度創設に向けた検討を行った。

7. 「レコード保護期間」の延長に向けた活動

他の権利者団体と協力し、国会議員や関係省庁に対して、レコード保護期間延長の必要性について理解を得るための働き掛けを行った。

【5】レコードに関する出版物の刊行等

1. 出版物の刊行

月刊機関誌「THE RECORD」を発行し、会員社、関係団体、官公庁、マスメディア、業界関係者などに配布した。また、日本のレコード産業の年間統計資料集として「日本のレコード産業2012」を和文、英文で発行し、当協会ホームページ上でも公開した。

2. ホームページの運営

当協会サイトについて、従来のPCサイト・モバイルサイトに加えスマートフォン対応の公式サイトを開設した。

【6】レコード製作者に係る商業用レコードの二次使用料に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収及び分配

1. 二次使用料収入確保のための検討

- (1) 日本放送協会から徴収する二次使用料については協議が整わず、今年度は平成22年度と同額の暫定支払いを受け、次年度も協議を継続することとした。
- (2) 日本民間放送連盟加盟のBS放送事業者との間で、平

成21～24年度の使用料について4年契約が成立した。

- (3) 有線ラジオ放送事業者との間で平成22～24年度の使用料について3年契約が成立した。
- (4) 日本コミュニティ放送協会との間で、コミュニティFM放送事業者にかかる平成23～30年度の使用料について8年契約が成立した。
- (5) 徴収額の合計は58億7,000万円(前年度比4.5%増)、権利者分配額は54億2,000万円(前年度比4.8%増)となった。

2. 送信可能化権に関する権利委任範囲の見直し

有線・衛星ラジオ番組の業務店向けネット配信について、6月に使用料規程を文化庁へ提出し、7月より管理事業を開始した。

3. 二次使用料実績分配の運用開始

- (1) 分配規程を改定し、新たな運用ルールを委任者に周知した。
- (2) 各放送事業者から受領したレコード使用実績データをシステムで効率的に照合し、約41万件の実績データに基づき第1回の実績分配を行った。
- (3) 実績分配システムの改良とレコードに関するデータベースの拡充により、システムによる自動照合率を引き上げた。次年度以降も更に改善に取り組む。
- (4) 実績分配のキーコードとなるISRCの精度向上について、各社で誤付番を確認・修正した結果、精査したISRC件数が総数の99%に達した。

【7】レコード製作者に係る商業用レコードの公衆への貸与に係る報酬等に関する権利行使の受任、金額の取り決めならびに徴収および分配

- (1) 徴収額は33億8,500万円(前年度比1.4%減)、権利者分配額は31億8,600万円(前年度比1.2%減)となった。
- (2) 使用料等の分配方法の変更に関して関連団体と協議を行い、合意された新たな分配方法の実務運用等について決定した。平成24年度の運用開始に向けて、新分配システムの開発を行った。

【8】私的録音録画補償金に関する権利行使団体の構成員としての業務ならびにレコード製作者に係る当該補償金の分配

1. 私的録音補償金

私的録音補償金管理協会 (sarah) から6,700万円(前年度比23.9%減)を受領し、5,900万円(前年度比25.3%減)を権利者に分配した。

2. 私的録画補償金

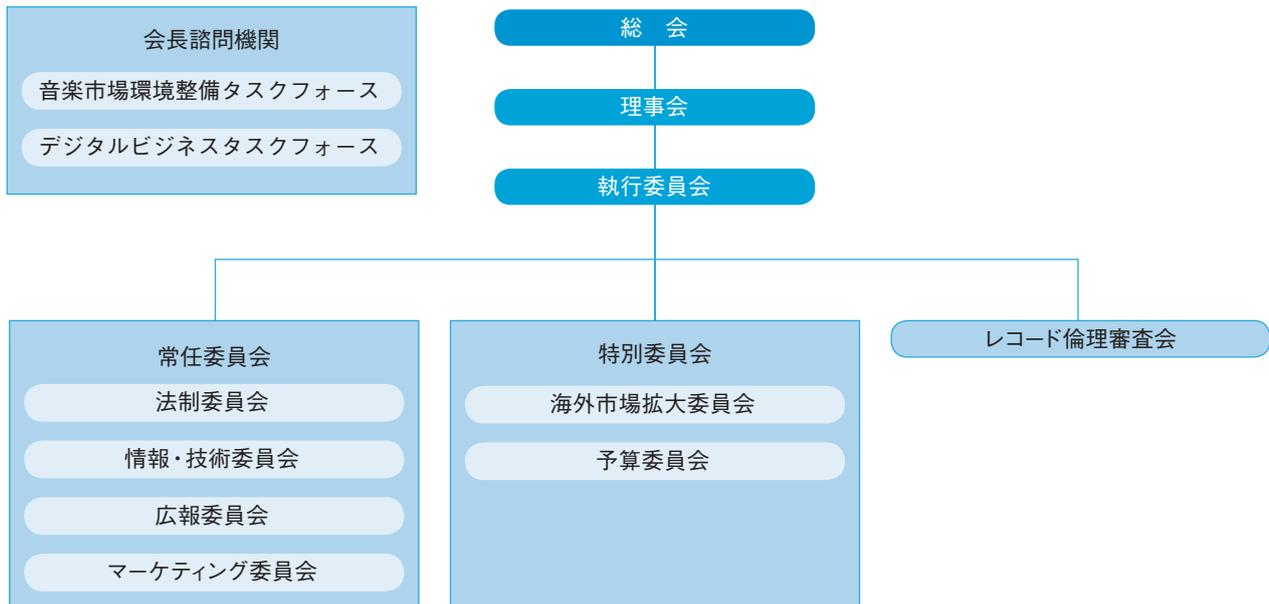
私的録音録画補償金管理協会 (SARVH) から5,800万円(前年度比100%)を受領し、5,300万円(前年度比100%)を権利者に分配した。

[9] その他

1. 政府の審議会等への委員派遣および経済団体への参画等
文化審議会著作権分科会等へ委員を派遣するなど、外部の会議体等に積極的に参画し、意見の表明を行った。
2. 国内・国外の団体、機関との連携活動
国内の音楽関係団体並びに国際レコード産業連盟 (IFPI) 及びアメリカレコード協会 (RIAA) 等海外のレコード産業団体との連携と情報交換を実施した。
3. 「レコード倫理審査会」の開催・運営
会員社から発売される全邦楽作品9,074点について審査を行った。
4. 業界規格 (RIS) の制定と改正
日本レコード協会規格 (RIS) 504別冊「各種コード一覧表」(2012年3月版) を発行した。
5. “ISRC” (International Standard Recording Code) の管理機関としての活動
登録者コードの新規発行件数75件 (前年度94件)、個別コードの発行曲数は15,861曲 (前年度16,806曲) であり、3月末の累計数は登録者コード1,495件、個別コード79,842曲となった。
6. 福祉・厚生施設へのレコード寄贈
今年度 (第49回) は、18,515枚の音楽CDを福祉施設643カ所、東日本大震災被災地の避難所32カ所およびコミュニティFM局20局へ寄贈した。
7. 会員社業務の集約化 (シェアードサービス)
会員社業務の集約化を目的として、違法音楽配信の探索・削除要請等業務の集約化、「貸レコード使用料等」の新分配方法に関する共通システムの開発に取り組んだ他、新たに放送局向けオンライン・プロモーションの有効性を検証する業務に着手した。

運営体制

平成23年度における当協会の運営体制は次の通りである。



以上

2011年世界の音楽産業

IFPI (国際レコード産業連盟) は、年次レポートの「Recording Industry in Numbers 2012」を発行した。2011年の世界の音楽産業の動向をダイジェストで紹介する。

世界音楽売上実績

2011年の全世界音楽売上(パッケージ、配信、演奏権収入、シンクロ収入合計)は166億ドルとなり、対前年比で3.0%のマイナスとなった。パッケージ売上では対前年比で8.7%減だったが、前年よりも落ち幅(13.8%減)は縮小した。一方、有料音楽配信売上は8.0%増加し、初めて50億ドルを突破した。売上総合計における有料音楽配信売上の割合(以下、収入シェア)は31%となり、2010年の28%からさらに伸長した。演奏権収入は4.9%増の約9億ドル(収入シェア6%)となった。

また、IFPI(国際レコード産業連盟)は今回初めて、シンクロライゼーション(原盤ライセンス)収入(以下、シンクロ収入)を含む統計を公表した。この「シンクロ」は、テレビ広告、映画、ブランドとの提携、ビデオゲームにおいて利用されることがここ数年増えており、レコード会社にとって、顧客開拓や収益強化の有効な手段となっている。2011年のシンクロ収入は約3.4億ドル(対前年比5.7%増、収入シェア2%)であった。

対前年比の結果では、音楽売上は年々減少しているが、2004年(2003年と横ばい)以降で見ると、2011年は最もマイナス幅が小さかった。これは1位のアメリカと3位のドイツの影響が大きい。上位20位のうち7カ国:カナダ(2.6%増)、スウェーデン(3.0%増)、インド(6.2%増)、韓国(6.4%増)、ブラジル(8.6%増)、

メキシコ(5.5%増)、オーストラリア(5.7%増)で売上が増加したことも影響した。

イギリスのアーティスト、アデルの世界的ブレイクもパッケージ売上に大きく貢献した。アデルのアルバム『21』はここ10年間で最も売れたアルバムとなり、全世界で1,800万枚という驚異的な売上を記録した。

総売上ランキングでは、首位のアメリカを含む上位5カ国の順位は2010年と変動はなかったが、オーストラリアがカナダを逆転して6位に順位を上げた他、ブラジルがイタリアとオランダを抜いて8位となった。有料音楽配信売上で特筆すべきは、スウェーデンが中国とインドを抜いて9位に上昇したことである。

演奏権(使用料)収入ランキングの大きな動きとしては、アメリカ(2010年4位)がイギリスを逆転して1位となり、オーストラリアとブラジルがトップ10に入った。シンクロ収入は、アメリカが世界全体の半分以上を占め首位となり、イギリス、日本、フランス、カナダがそれに続く結果となった。

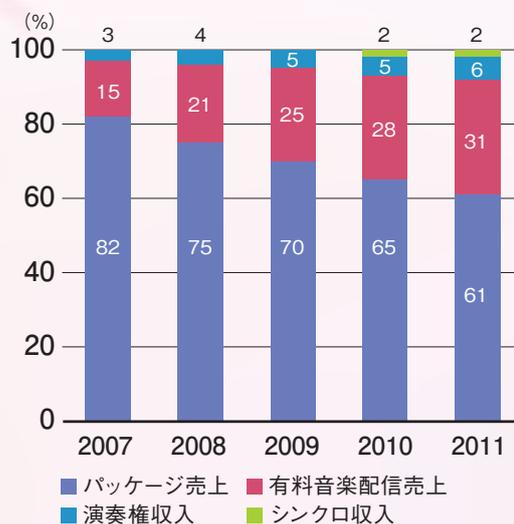
● 世界音楽売上 (2010年 - 2011年)

金額: 百万 US ドル (卸価格ベース)
※ 2011年換算レート: 1ドル = 79.74円

	2010年	2011年	前年比
パッケージ売上	11,142	10,170	▲ 8.7%
有料音楽配信売上	4,840	5,229	+8.0%
演奏権収入	862	905	+4.9%
シンクロ収入	324	342	+5.7%
合計	17,168	16,646	▲ 3.0%

出典: IFPI 「Recording Industry in Numbers 2012」

● 世界音楽売上—収入シェアの推移 (金額)



出典: IFPI 「Recording Industry in Numbers 2012」

●世界音楽売上推移（金額）



※卸価格ベース

出典：IFPI 「Recording Industry in Numbers 2012」

●2011年 世界音楽売上 TOP20

順位	国名	卸価格ベース			収入シェア				小売価格ベース	
		USドル (百万)	現地通貨 (百万)	対前年比	パッケージ 売上	有料音楽 配信売上	演奏権 収入	シンクロ 収入	USドル (百万)	現地通貨 (百万)
1	アメリカ	4,372.9	4,372.9	▲0.1%	42%	51%	3%	4%	6,485.0	6,485.0
2	日本	4,087.7	325,951.6	▲7.0%	75%	22%	2%	1%	5,545.5	442,199.9
3	ドイツ	1,473.7	1,061.1	▲0.2%	78%	15%	6%	1%	2,017.6	1,452.7
4	イギリス	1,433.7	888.9	▲3.1%	58%	32%	8%	2%	1,904.2	1,180.6
5	フランス	1,002.2	721.6	▲3.7%	71%	19%	8%	2%	1,391.5	1,001.9
6	オーストラリア	475.2	461.0	5.7%	55%	38%	5%	2%	658.9	639.1
7	カナダ	434.0	429.7	2.6%	54%	38%	4%	4%	535.2	529.8
8	ブラジル	262.6	441.2	8.6%	74%	17%	8%	1%	365.9	614.7
9	オランダ	240.2	172.9	▲12.1%	71%	14%	15%	0%	286.2	206.1
10	イタリア	239.9	172.7	▲6.4%	68%	20%	9%	3%	304.5	219.3
11	韓国	199.5	221,316.5	6.4%	44%	54%	1%	1%	388.0	430,373.3
12	スペイン	190.0	136.8	▲3.3%	56%	24%	19%	1%	203.1	146.2
13	スイス	158.3	140.9	▲16.2%	72%	23%	5%	0%	199.4	177.4
14	スウェーデン	155.3	1,009.4	3.0%	45%	44%	10%	1%	240.8	1,565.0
15	メキシコ	141.2	1,758.5	5.5%	70%	28%	1%	1%	203.8	2,536.7
16	インド	141.2	6,671.4	6.2%	41%	46%	8%	5%	227.7	10,757.3
17	ベルギー	140.5	101.1	▲10.2%	75%	13%	12%	0%	208.5	150.1
18	オーストリア	118.9	85.6	▲7.3%	70%	18%	11%	1%	195.8	141.0
19	ノルウェー	115.1	645.6	▲0.7%	43%	45%	11%	1%	156.6	878.4
20	南アフリカ	102.0	741.6	▲18.7%	93%	6%	0%	1%	152.9	1,111.3
	世界合計	16,645.9	-	▲3.0%	61%	31%	6%	2%	23,335.5	-

出典：IFPI 「Recording Industry in Numbers 2012」

◆ 参考資料（各売上・収入および総合計における各国シェア）◆

パッケージ売上

順位	国名	%
1	日本	30%
2	アメリカ	18%
3	ドイツ	11%
4	イギリス	8%
5	フランス	7%
6	オーストラリア	3%
7	カナダ	2%
8	ブラジル	2%
9	オランダ	2%
10	イタリア	2%

有料音楽配信売上

順位	国名	%
1	アメリカ	42%
2	日本	17%
3	イギリス	9%
4	ドイツ	4%
5	フランス	4%
6	オーストラリア	3%
7	カナダ	3%
8	韓国	2%
9	スウェーデン	1%
10	インド	1%

演奏権収入

順位	国名	%
1	アメリカ	14%
2	イギリス	13%
3	日本	11%
4	ドイツ	11%
5	フランス	9%
6	スペイン	4%
7	オランダ	4%
8	オーストラリア	3%
9	ブラジル	2%
10	イタリア	2%

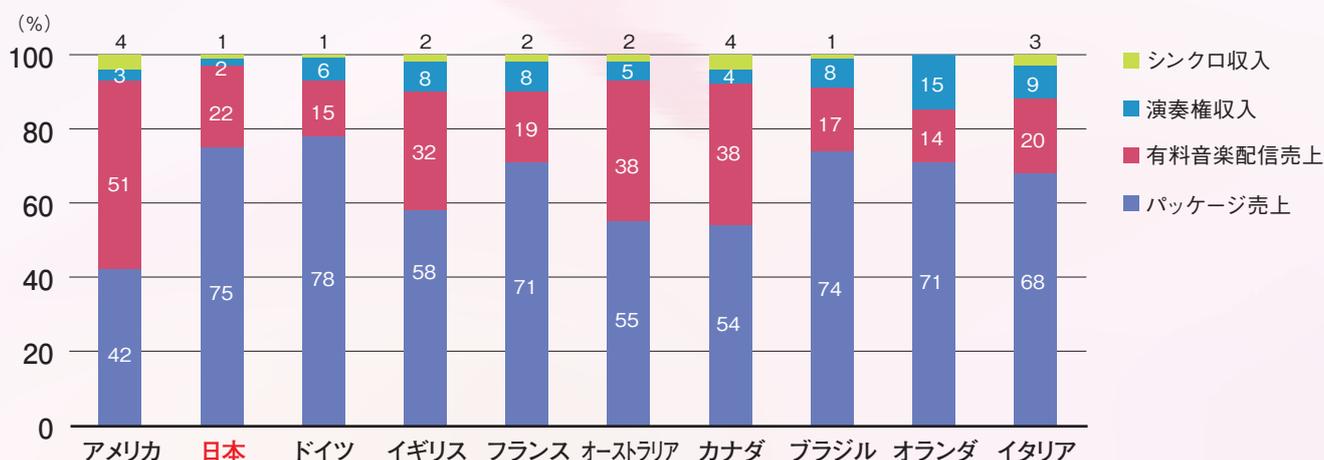
シンクロ収入

順位	国名	%
1	アメリカ	55%
2	イギリス	10%
3	日本	9%
4	フランス	5%
5	カナダ	5%
6	オーストラリア	2%
7	ドイツ	2%
8	インド	2%
9	イタリア	2%
10	ロシア	1%

音楽総売上（パッケージ売上、有料音楽配信売上、演奏権収入、シンクロ収入の合計）

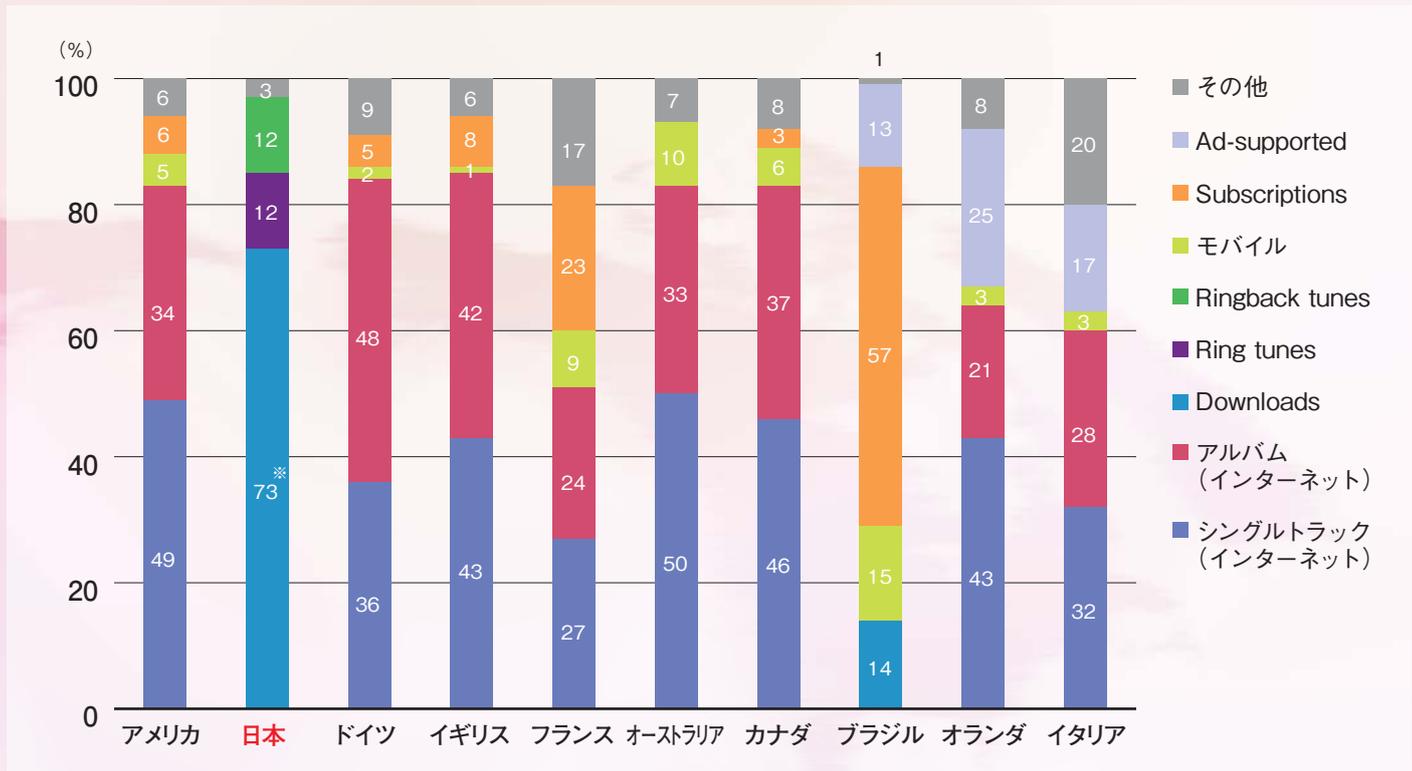
順位	国名	%
1	アメリカ	26%
2	日本	25%
3	ドイツ	9%
4	イギリス	9%
5	フランス	6%
6	オーストラリア	3%
7	カナダ	3%
8	ブラジル	2%
9	オランダ	1%
10	イタリア	1%

● 2011年世界音楽売上TOP10 - 収入シェア別割合



出典：IFPI 「Recording Industry in Numbers 2012」

● 2011年世界音楽売上TOP10 – 有料音楽配信売上フォーマット別割合



※日本の Downloads にはモバイルのシングルトラックも含む
出典：IFPI 「Recording Industry in Numbers 2012」

アジア市場

日本は今なお突出してアジア最大の音楽市場であり、アジア全体の音楽売上の85%を占めている。日本市場はインターネット配信の売上は大きく伸びたものの、モバイルの音楽配信売上の落ち込みが影響し、パッケージ等を含む音楽売上全体では対前年比7.0%減となった。日本の音楽配信売上上で、従来から大きな割合を占めていたモバイルの音楽配信売上は急減した。違法配信は日本で大きな問題となっており、携帯電話の違法配信と無料動画配信サイトからのリッピングが顕著に増加している。独自の携帯電話フォーマットが市場を独占してきたために、日本ではスマートフォンの普及が他の先進国に比べて大きく遅れ、世界的な音楽配信サービスの利用は限られていたが、この状況は変わりつつある。

2011年、音楽業界は中国で合法的な市場を構築するための取り組みを進めた。中国はインターネットユーザー数で世界全体の約25%、途上国の37%を占めるに至った (ITU (国際電気通信連合) 「The World in 2011」)。中国の音楽市場の95%は北京語のコンテンツが占めており、外部の参入が難しくなっている。長年にわたり、音楽配信は違法配信の横行で成長を阻害され、レコード会社への収入配分が少ないために成長を抑制されてきた。しかし、改善の兆候も見られる。2011年、

検索エンジン中国大手のBaiduは、著作権侵害にあたる自社のディープリンクを廃止し、許諾を受けて音楽事業を始めることに同意した。中国の法制環境のさらなる改善を予想する声は多い。中国政府は、経済が発展して知的財産権の保護に頼る企業が増えるにつれ、その方面の取り組みを強化していく見通しだ。

韓国市場は2011年も世界市場を上回る成長を示し、世界のトップ10入りまであと一步に迫った (2005年の時点では33位)。法制環境の改善は、アジア各国での韓国人アーティストの人気とともに、売上を牽引している。以前はJポップの主要なユーザーであった日本の若年消費者層がKポップを受け入れたことにより、Kポップは世界第2位の日本の市場を席巻している。こうして、韓国は音楽輸出国としてアメリカ、イギリス、スウェーデンなどに加わった (「2010年 韓国の著作権に関する年次報告書」)。

インド市場は2011年も引き続き成長した。インドの音楽売上高全体の46%を占める音楽配信部門は、リングバックトーンによって牽引されている。着信メロディ・着信楽曲サービスの利用は違法配信・コピーの横行により広まっていない。

私の一枚



林 真司

一般社団法人 日本レコード協会 理事
(エイベックス・マーケティング株式会社
代表取締役社長)



●「木枯しに抱かれて」 (小泉今日子)

私の一枚というか、私の一曲というテーマにさせていただきますが、思い出を語らせてもらいます。

曲は『木枯しに抱かれて』。歌唱は小泉今日子さん。

発売日は、1986年11月19日。この年の4月26日、チェルノブイリ原発事故が起こり、11月15日には伊豆大島の三原山が噴火した年になります。私は、当時22歳。大学生で、現在のエイベックス・グループ・ホールディングス株式会社の代表取締役社長CEOである松浦と、横浜市の上大岡という駅前の貸しレコード店「友&愛」で毎日働いていました。(ちなみに、その翌々年の1988年4月11日にエイベックスは設立されました。)

この曲との出会いは、そんな中での事でした。

デビューから20枚目(既発シングル2枚の12インチを含む)のシングル曲です。この曲までの私の小泉今日子さんに持っていたイメージは、可愛いアイドル。しかし、この曲を聴いた後、イメージがガラッと変わりました。

作詞作曲は、ご存知の方も多いと思いますが、THE ALFEEの高見沢俊彦氏。小気味好くはじまるマーチングバンドのような太鼓が刻むリズムとバグパイプ風な音は、深まりゆく秋…冬の到来を感じさせる情感溢れるメロディアスなライン。前奏を聴いた瞬間から、この深みに心ひきつけられました。それに、歌詞にも何度もでてくる“せつない片思い”のフレーズが、小泉今日子さんの声で、ぐっとさせられました。素敵な大人を感じさせられ、とても魅せられたものです。

【曲】と【詞】と【アーティスト】との出会いなんですね。

今聴いてみても、とても素敵な一曲です。

ご好評いただいた「私の一枚」は、今回をもって終了いたします。次号より新連載の掲載を予定しております。

2012年第1四半期有料音楽配信売上実績

2012年第1四半期は、数量で前年同期比77%の7,817万1,000ダウンロード、金額で前年同期比80%の154億1,000万円となった。内訳では、インターネット・ダウンロードが、数量で前年同期比131%の1,897万5,000ダウンロード、金額で前年同期比138%の39億7,100万円、モバイルが、数量で前年同期比69%の5,883万7,000ダウンロード、金額で前年同期比69%の111億2,400万円となった。

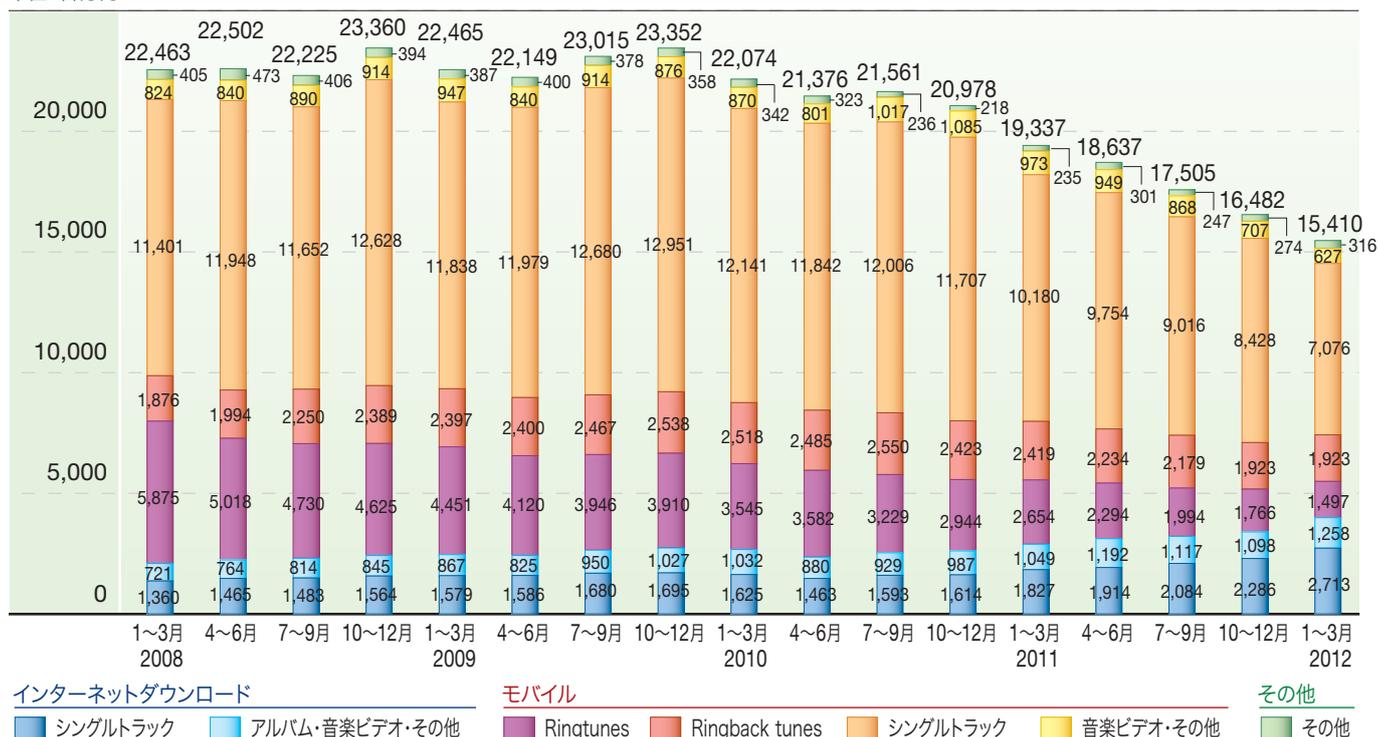
(数量：千回/金額：百万円)

	形態	2012年1月～2012年3月 累計			
		数量	前年同期比	金額	前年同期比
インターネットダウンロード	シングルトラック	17,269	133%	2,713	148%
	アルバム	977	124%	1,067	122%
	小計 (オーディオダウンロード分)	18,246	132%	3,780	140%
	音楽ビデオ	726	107%	191	109%
	その他	3	-	0	-
	合計	18,975	131%	3,971	138%
モバイル	Ringtunes	15,078	57%	1,497	56%
	Ringback tunes	21,945	79%	1,923	80%
	シングルトラック	20,602	70%	7,076	70%
	音楽ビデオ	898	52%	365	53%
	その他	315	51%	262	92%
	合計	58,837	69%	11,124	69%
その他	サブスクリプション (インターネット)			98	132%
	サブスクリプション (モバイル)			67	85%
	その他 (その他のデジタル音楽コンテンツ)	359	25%	151	184%
総合計		78,171	77%	15,410	80%

注：数量・・・ダウンロード回数

● 有料音楽配信四半期毎金額推移

単位：百万円



Monthly Production Report

2012年4月度レコード生産実績

4月度の音楽ソフト（オーディオレコード・音楽ビデオの合計）生産実績は、数量で前年同月比113%の1,940万枚・巻、金額で同105%の217億円となった。

内訳は、オーディオレコードが、数量で前年同月比115%の1,584万枚・巻、金額で同111%の171億円、音楽ビデオが、数量で前年同月比106%の356万枚・巻、金額で同88%の46億円となっている。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			4月実績						2012年1月～2012年4月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	5	0	118%	3	0	114%	29	0	214%	24	0	272%
		洋	0	0	0%	0	0	0%	0	0	2%	0	0	11%
		計	5	0	115%	3	0	111%	29	0	156%	24	0	255%
ン	12cmCD	邦	5,436	34	130%	4,193	25	131%	17,637	28	108%	13,109	20	115%
		洋	68	0	43%	107	1	133%	617	1	111%	452	1	123%
		計	5,505	35	127%	4,299	25	131%	18,254	29	108%	13,561	21	115%
ル	小計	邦	5,441	34	130%	4,196	25	131%	17,666	28	108%	13,133	20	115%
		洋	68	0	43%	107	1	133%	617	1	110%	452	1	123%
		計	5,510	35	127%	4,303	25	131%	18,284	29	108%	13,586	21	115%
12cmCD アルバム	邦	7,354	46	113%	10,423	61	116%	31,564	51	103%	41,418	63	100%	
	洋	2,723	17	101%	2,124	12	73%	11,091	18	100%	9,913	15	89%	
	計	10,077	64	110%	12,547	73	105%	42,655	69	102%	51,332	78	98%	
CD 合計	邦	12,796	81	120%	14,619	86	120%	49,230	79	104%	54,552	83	103%	
	洋	2,791	18	98%	2,231	13	74%	11,708	19	101%	10,365	16	90%	
	計	15,587	98	115%	16,850	99	111%	60,938	98	104%	64,917	98	101%	
アナログ ディスク	邦	0	0	0%	0	0	0%	54	0	165%	13	0	28%	
	洋	9	0	60%	15	0	40%	27	0	123%	33	0	76%	
	計	9	0	58%	15	0	39%	80	0	148%	47	0	51%	
カセット テープ	邦	183	1	135%	137	1	124%	716	1	92%	561	1	94%	
	洋	0	0	-	0	0	-	1	0	-	1	0	-	
	計	183	1	135%	137	1	124%	717	1	92%	561	1	94%	
その他	邦	11	0	59%	15	0	52%	56	0	125%	61	0	112%	
	洋	50	0	95%	66	0	177%	211	0	151%	349	1	155%	
	計	61	0	85%	81	0	123%	266	0	145%	410	1	147%	
合 計	邦	12,990	82	120%	14,771	86	120%	50,056	81	104%	55,186	84	103%	
	洋	2,850	18	98%	2,312	14	75%	11,946	19	101%	10,748	16	91%	
	計	15,840	100	115%	17,083	100	111%	62,002	100	104%	65,935	100	101%	

● 音楽ビデオ

			4月実績						2012年1月～2012年4月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	3,077	86	103%	3,347	73	77%	17,172	86	115%	17,657	78	89%	
	洋	198	6	87%	204	4	72%	1,817	9	103%	1,878	8	88%	
	計	3,275	92	101%	3,551	77	77%	18,989	95	114%	19,535	86	89%	
Blu-ray Disc	邦	263	7	199%	973	21	181%	786	4	299%	2,732	12	258%	
	洋	25	1	337%	68	1	370%	147	1	481%	388	2	412%	
	計	288	8	207%	1,041	23	187%	933	5	318%	3,120	14	271%	
テープ・その他		0	0	31%	0	0	40%	1	0	60%	4	0	78%	
合 計	邦	3,341	94	107%	4,321	94	88%	17,960	90	118%	20,393	90	98%	
	洋	222	6	95%	272	6	90%	1,964	10	110%	2,266	10	101%	
	計	3,563	100	106%	4,592	100	88%	19,924	100	117%	22,659	100	98%	

● 音楽ソフト（オーディオ/音楽ビデオ合計）

			4月実績						2012年1月～2012年4月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		15,840	82	115%	17,083	79	111%	62,002	76	104%	65,935	74	101%	
音楽ビデオ		3,563	18	106%	4,592	21	88%	19,924	24	117%	22,659	26	98%	
合 計		19,403	100	113%	21,676	100	105%	81,926	100	107%	88,594	100	100%	

● ビデオ（含音楽ビデオ）

			4月実績						2012年1月～2012年4月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		6,670	84	84%	9,973	73	71%	32,610	87	93%	48,586	78	87%	
テープ・その他		1,296	16	130%	3,633	27	131%	4,955	13	152%	13,912	22	137%	
合 計		7,966	100	90%	13,606	100	81%	37,565	100	98%	62,499	100	95%	

● オーディオ/ビデオ合計

			4月実績						2012年1月～2012年4月累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		15,840	67	115%	17,083	56	111%	62,002	62	104%	65,935	51	101%	
ビデオ		7,966	33	90%	13,606	44	81%	37,565	38	98%	62,499	49	95%	
合 計		23,806	100	105%	30,689	100	95%	99,568	100	101%	128,433	100	98%	

備考 1. 本年実績は、会員会社の集計である。当会員社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

音楽ソフト

邦楽

アルバム

● ゴールド

風歌キャラバン	ナオト・インティライミ	2012.04.18	UM
ALIVE	BIGBANG	2012.03.28	AMI
COVERS	BENI	2012.03.21	UM
PANORAMA PORNO	ボルノグラフィティ	2012.03.28	SE
YUZU YOU [2006～2011]	ゆず	2012.04.25	SN

シングル

● プラチナ

祈り～涙の軌道 / End of the day / pieces	Mr.Children	2012.04.18	TF
-----------------------------------	-------------	------------	----

● ゴールド

Go Round / YEAH-OH	安室 奈美恵	2012.03.21	AMI
さかさまの空	SMAP	2012.04.25	V
Lady ダイヤモンド	Sexy Zone	2012.04.11	PC
Spring of Life	Perfume	2012.04.11	UM
GO FOR IT, BABY -キオクの山脈-	B'z	2012.04.04	BG

ビデオ

● ゴールド

AKB48 紅白対抗歌合戦	AKB48	2012.03.28	AMI
Mr.Children STADIUM TOUR 2011 SENSE -in the field-	Mr.Children	2012.04.18	TF

洋楽

アルバム

● ゴールド

トーク・ザット・トーク	リアーナ	2011.11.26	UM
-------------	------	------------	----

※日付は発売日

認定基準一覧

音楽ソフト(邦・洋、アルバム・シングル・音楽ビデオ)、音楽配信(着うた®、着うたフル®, パソコンダウンロードシングル・アルバム)共通

名称	略号	基準
ゴールド	G	10万以上
プラチナ	P	25万以上
ダブル・プラチナ	PP	50万以上
トリプル・プラチナ	PPP	75万以上
ミリオン	M	100万以上
2ミリオン	2M	200万以上
3ミリオン	3M	300万以上
以降、100万毎に賞を設定		

基準単位: 音楽ソフト・枚、配信・DL (ダウンロード)

※着うた®のみダブル・プラチナ以上を顕彰

※ **AMI**: エイベックス・マーケティング/**BG**: ビーイング/**EMI**: EMI ミュージック・ジャパン/**ES**: EPIC レコードジャパン/**K**: キングレコード/**KS**: キュンミュージック/**PC**: ボニーキャニオン/**SE**: エスエムイーレコーズ/**SN**: SENHA & CO./**TF**: トイズファクトリー/**UM**: ユニバーサルミュージック/**V**: ビクターエンタテインメント/**WJ**: ワーナーミュージック・ジャパン/**YRC**: よしもとアール・アンド・シー

有料音楽配信 (「着うた®」他)

※「着うた®」「着うたフル®」は株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

「着うたフル®」

邦楽

● トリプル・プラチナ

愛をこめて花束を	Superfly	2008.02.13	WJ
----------	----------	------------	----

● ダブル・プラチナ

MR.TAXI	少女時代	2011.04.26	UM
ベイビー・アイラブユー	TEE	2010.10.06	UM

● プラチナ

言い訳 Maybe	AKB48	2009.08.19	K
READY STEADY GO	L'Arc ~ en ~ Ciel	2005.10.19	KS

● ゴールド

眠り姫	Acid Black Cherry	2009.02.12	AMI
Onara はずかしくないよ	オンナラプリー	2010.02.15	YRC
つけまつける	きゃりーぱみゅぱみゅ	2011.12.21	WJ
Rainy ~愛の調べ~	Janne Da Arc	2005.09.02	AMI
恋人	鈴木 雅之	2007.03.21	ES
生きてることが辛いなら	森山 直太郎	2008.08.20	UM

※日付は配信開始日

「PC 配信 (シングル)」

邦楽

● ゴールド

ギフト	ET-KING	2007.09.12	UM
つけまつける	きゃりーぱみゅぱみゅ	2011.12.07	WJ
ミセナイナミダハ、きつといつか	GReeeeN	2012.02.29	UM
Bo Peep Bo Peep (Japanese ver.)	T-ARA	2011.10.05	EMI

洋楽

● ゴールド

イツ・マイ・ライフ	ボン・ジョヴィ	2007.07.04	UM
-----------	---------	------------	----

協会からのお知らせ

「大人の音楽～Age Free Music～」の第8弾キャンペーンが、6月11日～8月31日の日程でスタートします。

第8弾のテーマは「がんばろう!ニッポン!」。
今回の対象作品は、当協会会員15社による68作品です。対象作品等の詳細は、キャンペーンサイトをご参照下さい。

また、7月18日には大人の音楽オフィシャルコンピレーションアルバム「同窓会」が4作品同時に発売されます。



(キャンペーンサイトURL)

<http://www.riaj.or.jp/otonaongaku/index.html>

THE RECORD No.631 2012年6月号 一般社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 北川直樹
編集人 田口幸太郎
発行日 2012年6月11日
発行 一般社団法人 日本レコード協会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-2-5 共同通信会館9F
TEL. 03-5575-1301 (代) FAX. 03-5575-1313
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフピーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

長年、西日の当たる部屋に住んでいるので太陽の威力を常々体感していますが、5/21の金環食の瞬間、あたりがほの暗く変化し何ともいえない幻想的な感覚を覚え、あらためて太陽の存在感を意識しました。

本号では2011年の世界の音楽産業の動向を紹介しましたが大震災の影響もさることながら、日本は世界音楽売上2位と一定の存在感を示しました。今は、経済の混乱と相まって、閉塞感が蔓延する状況です。しかし、このような状況だからこそ、世界に類をみないと言われる「日本の音楽文化の多様性」が長い歴史の中で育まれてきたわが国の貴重な宝物であるという事実を、あらためて意識すべきなのかもしれません。(T)